

**「環境モデル都市推進委員会・環境モデル都市推進本部会・専門委員」合同会議
2011年9月4日**

円卓会議での検討内容

3. 観光と公共交通円卓会議

観光と公共交通円卓会議

I. 観光活性化分科会

II. 中心市街地活性化分科会

III. 公共交通分科会

1. 観光分野の現状分析と検討の方向性

観光分野の現状と課題

- 全体的な傾向として、観光客のニーズに対応できず、観光入込客、特に宿泊客の減少が続いている。

検討の方向性

- **エコ2観光による交流人口の増加**
 - 水俣市は豊かな自然や生き物に恵まれ、地元の食材を生かした手料理をはじめ、先人の知恵や技術がつくりあげた生活文化なども伝承されている。
 - こうした資源を活用したエコツーリズムを推進する。
 - また、環境問題のトッランナーとして低炭素(エコ)な交通手段で移動可能な観光ネットワークを構築しつつ、交流人口の増加を図る。
- **参加型イベントの充実**
 - エコパークを活用したスポーツイベントや水俣川の利用などにより、市民が楽しんで参加でき、観光客も呼べるイベントを充実させる。
 - 豊かな公共空間づくりと連動した特徴的なイベントを検討する。

2. 観光活性化に向けた検討内容

観光資源としてのエコパーク活性化

- 2013年に予定される水俣条約(水銀条約)の採択に向けて、国内外の人々が訪れるエコパークの整備策、およびその周辺観光資源の活性化策

例えば…パーク内移動手段や、新駅の設置、周辺観光資源との一体的な活用方法等

肥薩おれんじ鉄道の観光利用促進

- 観光・交流人口を増やす上で、交通手段として重要な役割を担う、肥薩おれんじ鉄道の観光利用促進策について提案する。

例えば…デザイン車両・新車両導入や、車両以外の観光利用促進策等

環境首都水俣ならではの着地型観光

- 環境首都水俣ならではの着地型観光商品に向けてそのコンセプトや観光メニュー内容を整理する。

例えば…着地型観光のコンセプトやメニュー内容となる地域の観光資源について整理や評価等

3. 参画する主なメンバー

市民・組織等(案)

- JR新水俣駅、環不知火プランニング、観光物産協会、福田農場、山海館、湯の鶴温泉、青年会議所、市民公募

有識者

- 大西達也(日本政策投資銀行)
- 古木圭介(肥薩おれんじ鉄道)
- 小高直弘(観光販売システムズ)

市担当課

- 商工観光振興課
 - 環境モデル都市推進課、総合医療センター

観光と公共交通円卓会議

I. 観光活性化分科会

II. 中心市街地活性化分科会

III. 公共交通分科会

1. 中心市街地の現状分析と検討の方向性

中心市街地の現状と課題

- 医療・福祉産業等で域外マネーを獲得しても市外のロードサイド店での消費も多く、域外にマネーが流出している。
- 医療・福祉施設の集客力(医療センターだけで年間20万人以上)が、中心市街地等での消費に結びついていない。

検討の方向性

- 既存医療機関を核にした中心市街地の活性化
 - 病院等への来訪者が街に出て、飲食や買い物をしたくなるような仕組みを検討し、そのための空間を整備する。
- 空き店舗等を利用した多世代型サービス等の整備
 - 商店街の空き店舗等を活用し、子育て、介護予防など子どもから高齢者まで集めるコミュニティ拠点を整備する。

2. 中心市街地活性化に向けた検討内容

医療センターを玄関口と位置付けた「心豊かな公共空間」形成策

- 市内最大の集客施設である医療センターを商店街の玄関と位置付け、「心豊かな公共空間」としての活用に向けて、医療センターと商店街との連携事業に着手する。

例えば…医療センター内の公共空間の活用策や来院者を商店街に誘導する方策等

商店街の空き店舗等を活用した多世代コミュニティ拠点形成

- 多世代コミュニティ拠点の実現可能性について整理する。

例えば…空き店舗を活用した障がい者・高齢者・子育て世代等のニーズをくみ取った多世代コミュニティ拠点の形成等

公共交通利用促進策

- 公共交通機関の利用促進によって、⁸低炭素化とともに、中心市街地での滞留時間を増やし、消費額を増加させる。

例えば…公共交通機関と医療センターや商店街等との共通カード導入策等

3. 参画する主なメンバー

市民・組織等(案)

- 商店街連合会、国立水俣病総合研究センター、商工会議所青年部、婦人会、社会福祉事業団、市民公募

有識者

- 大西達也(日本政策投資銀行)
- 松橋啓介(国立環境研究所)
- 坂口俊一(商工会議所会頭)

市担当課

- 商工観光振興課
 - 環境モデル都市推進課、総合医療センター

観光と公共交通円卓会議

I. 観光活性化分科会

II. 中心市街地活性化分科会

III. 公共交通分科会

1. 公共交通の現状分析と検討の方向性

公共交通の現状と課題

- 乗用車での移動が長距離化しており、周辺市と比較しても乗用車による化石燃料の消費が多い状況である。

検討の方向性

- 低炭素化を図るため、公共交通及び自転車を中心とした交通体系を確立し、鉄道、バス等の公共交通機関や自転車の利用、徒歩による移動を促進する。
 - 「肥薩おれんじ鉄道」を新駅等の設置によって駅間距離を短縮させ、都市内輸送にも対応可能な鉄軌道にする。
 - 鉄道、バス、自転車、電動バイク、タクシー等の交通手段の連携策（複合的利用方法）や運賃改定、路線再編等について検討し、公共交通の総合的な利便性向上を図る。

2. 公共交通活性化に向けた検討内容

肥薩おれんじ鉄道活性化策

- 地域の公共交通機関の中心的存在である肥薩おれんじ鉄道の新駅設置や車両増発の影響・効果について明らかにする。

例えば…新型車両導入や、新駅設置、地域利用促進策等

公共交通連携コンパクトシティ形成

- 公共交通を骨格としたコンパクトシティ形成のため、公共交通機関の活性化を図る。

例えば…肥薩おれんじ鉄道、九州新幹線、路線バス、自転車等の公共交通手段の連携強化策等

3. 参画する主なメンバー

市民・組織等(案)

- JR九州、肥薩おれんじ鉄道、ハートリンク水俣、観光物産協会、産交バス、老人会、市民公募

有識者

- 古木圭介(肥薩おれんじ鉄道)
- 松橋啓介(国立環境研究所)

市担当課

- 企画課
 - 環境モデル都市推進課、都市政策課、土木課